

発行・問い合わせ：奈良市都市整備部公園緑地課
〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1-1 電話：0742-34-4916



Introduction

はじめに



奈良市公園 マネジメント基本計画 とは(計画の目的)

公園は、都市環境の改善、自然環境の保全、都市防災などの重要な役割を担っています。また、今日、公園に対しては、多様化する市民ニーズへの対応が求められるとともに、人口減少や厳しい財政状況などの社会情勢の変化を背景に、より効果的・効率的な管理・運営の必要性が問われるなど、様々な課題が顕在化しています。

このような状況を受け、国においては、2017(平成29)年に都市公園法の改正が行われ、緑とオープンスペースが持つ多機能性を都市や地域、市民のために最大限に引き出していくため、公園緑地行政は新たなステージへの移行が進められています。

本市では、公園が抱える現代的課題を整理し、これらに対応するとともに公園の価値を一層向上させるため、行政主体の取組だけでなく、市民、地域コミュニティ、関係団体、民間事業者などとの連携により、新たな発想や仕組みを取り入れたモデル的な取組を展開してきました。

そこで、今後の奈良市の公園の整備・管理・活用における将来像や重視される視点、基本的な方向性を示すため、奈良市公園マネジメント基本計画を策定しました。



奈良市には地域それぞれに多くの公園があり、子どもたちの遊び場やママパパの情報交換の場、地域の方々が交流する場となっています。

ニューノーマル時代になり、これまで以上に公園などの屋外空間が注目される中、奈良市でもこれまで以上に公園を活用し、またこれまでとは異なる使い方もしてもらいたいと考えています。

そこで、“日常に公園のある暮らし”を公園マネジメントの将来像として、公園が皆さんの暮らしの中に溶け込んだ奈良スタイルの市民生活を提案するための「パークライフのすすめ」を作成しました。

市民、地域団体、民間事業者、行政が一体となり、公園を知り、活用し、管理していければと思っています。

本誌が伝えたいメッセージ



対応すべき課題



市民の公園への“関わりしろ”の拡充・“使いこなし”の支援

公園は市民の日常を支える存在ですが、周辺住民が日常的に問題意識をもつ対象とはなっていないのが現状です。

身近にある公園を自分ごととして考えられる市民を増やすため、市民が関わりたくなるような「関わりしろ」を拡充し、公園を日常的に「使いこなし」てもらふことで、存在意義を向上させることができます。



効率的なストックマネジメントの実現

奈良市の公園は小規模な公園が多く、市民ボランティアの方々にも協力をいただいておりますが、行政主体の維持管理には限界があるのが現状です。

今後ますます少子高齢化や人口減少が進み、財政的逼迫も想定されることから、今あるストックを効率的に管理運営していくことが求められています。

利用者ニーズを把握し、公園運営にフィードバックする仕組みづくり

地域住民の生活スタイルは時代とともに変化し、公園に対するニーズも変わってきますが、公園の仕様を大きく見直すことは困難です。しかし、ソフトの取組で対応することができるニーズもあると考えられます。

地域住民や地域団体と対話を継続的に行うことで、変化するニーズを常に把握し、一緒に対応を検討していく仕組みづくりが必要です。



画一的な仕様・ルールと利用状況とのギャップ解消

現在市内の公園ではボール遊びやペットの散歩の禁止など、画一的なルールが設定されていますが、そのルールは住民ニーズと異なっている場合があります。

このギャップを埋めるため、地域住民などとの対話を通して、柔軟な対応が必要です。また、これまで公園を利用してこなかった市民が利用したくなるような仕様やルールの検討も必要です。

多様な主体と連携した公園づくり

都市公園法の改正により、公園の魅力向上のために民間事業者のアイデアやノウハウを活用している事例も増えており、参画する民間事業者も大手から地元企業まで様々です。

様々な可能性を秘めた公園という公共空間の魅力向上は行政だけでなく、民間事業者と協働で行うことが重要です。



公園の配置や社会情勢などを踏まえた各公園の役割・機能のアップデート

まちの形成過程や歴史から一部の地域では計画的な公園の配置が行われていないものの、神社仏閣や緑道など、緑地空間が市民の生活に潤いを与えています。

公園だけでなく、その他の緑地の存在も加味し、ストックマネジメントの観点から既存公園を最大限に生かす方策を考えます。



日常に公園のあふ暮らし

公園を介して出会い・交流がある暮らし

公園は、何をするとところでしょうか。
 “屋外で身体を動かす” “自然やみどりの豊かさを楽しむ”
 “ゆっくりと時間を過ごす” もちろんこれらも公園を訪れる目的としては十分です。
 しかし、公園でできることはもっと自由であっていいはず。奈良市の公園では、市民が「公園でできたらいいな」と思うことを実現していくことで、公園の機能を多様化していきます。その結果、さまざまな目的で公園を訪れる人どうしが、出会い・交流することができる。そんな暮らしの実現を目指します。

お気に入りの公園がある暮らし

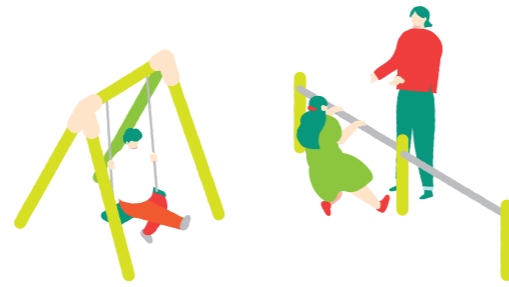
『サード・プレイス』。それなく、自分が思い思いに過ごす小さな公園は、それ一つでできません。しかし、近くにある、また公園間を行き来したくことで、地域における居住者やるニーズを満たすことが可能で
 そうすることで、身近な場所サード・プレイスとなる公園がすことで豊かな暮らしの実現を

自分たちで居場所を編集する暮らし

住まいやお家の庭などは、住まい手のライフステージの変化などに応じ、暮らし方が変われば、それに合わせ住まい手により作り替えられるものです。
 これは、公園も同じであるといえます。
 市民一人ひとりが、公園を自分たちの住まいや庭のように捉え、使いこなし、手入れする。さらに、地域や時代のニーズに合わなければ、それらの在り方について話し合い、編集し続けることができる、そんな暮らしを目指します。



将来像の実現を目指す上では、次の視点を重視し、整備や管理・運営といった公園のマネジメントを展開します。



様々な潜在的ニーズが集まる公園。
公園を使いたい人、地域の人々、管理する人が同じテーブルについて、対話することから始めましょう。
目指すべき公園のあり方を共有し、みんなにとってよい方法を探します。



大きな整備には膨大なコストがかかり、実現にも時間がかかります。そこで、小さく、気軽に、公園を変化させる取組にトライしてみましょう。小さな変化を大きく育てるのです。



公園を魅力的にできる資源や人材は意外と身近にいるかもしれません。地域外の人を巻き込んでみるのもひとつの手です。
地域をより深く誇れるようになり、地域を元気にすることができます。

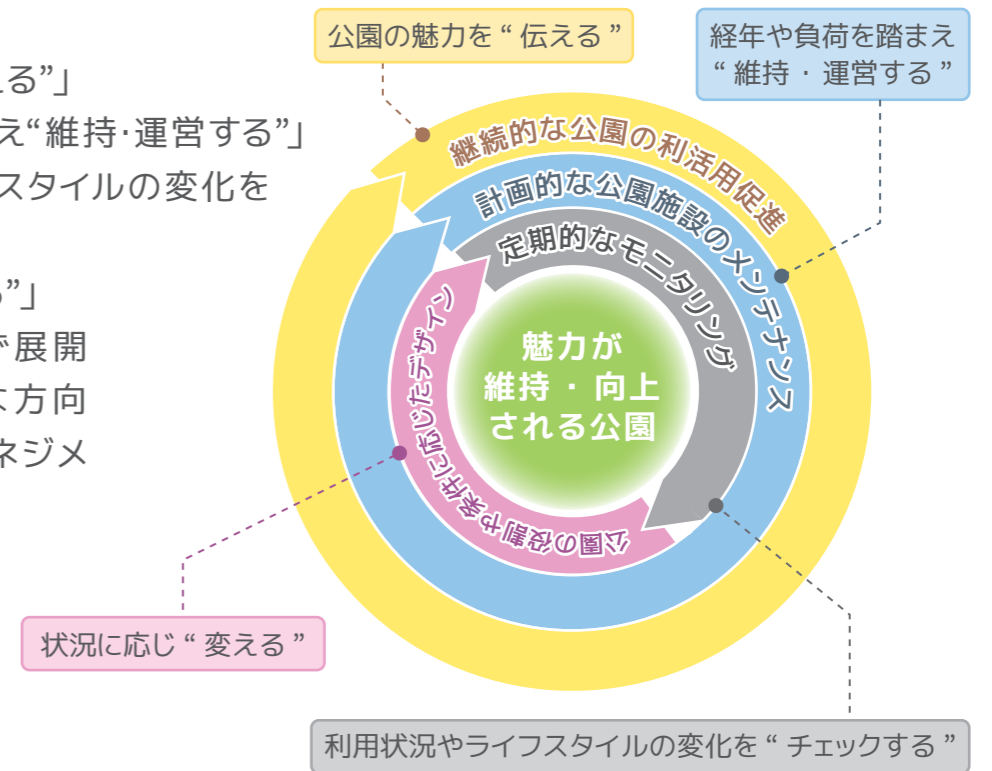


全ての人々が気持ちよく公園を利用するためには最低限のルールは必要。しかし、多すぎると使いにくい。マナーだけに委ねることも難しい。
みんなが気持ちよく公園を利用できるように、ルールとマナーのバランスを大事にしましょう。



公園は継続的に維持管理をしても、いつかは老朽化・劣化します。また、ニーズも常に変化します。
定期的にサービスとニーズがマッチしているか観測するとともに、公園の在り方や管理運営方法を更新し続けていきましょう。

奈良市では、
「公園の魅力を“伝える”」
「経年や負荷を踏まえ“維持・運営する”」
「利用状況やライフスタイルの変化を“チェックする”」
「状況に応じ“変える”」
の4つの柱を絶えず展開することを基本的な方向性として、公園をマネジメントしていきます。



「公園の魅力を“伝える”」～継続的な公園の利活用促進～

- 市民による公園の利活用を促進します
- 公園利活用に係る手続きや公園でできることを周知します
- 利用者の声を汲み取る仕組みを構築します

「経年や負荷を踏まえ“維持・運営する”」～計画的な公園施設のメンテナンス～

- 長寿命化対策などにより施設のライフサイクルコストを縮減します
- 市民との連携により公園ハザードを事前に抑止します
- 公園のユニバーサルデザインの遊び場を推進します

「利用状況やライフスタイルの変化を“チェックする”」～定期的なモニタリング～

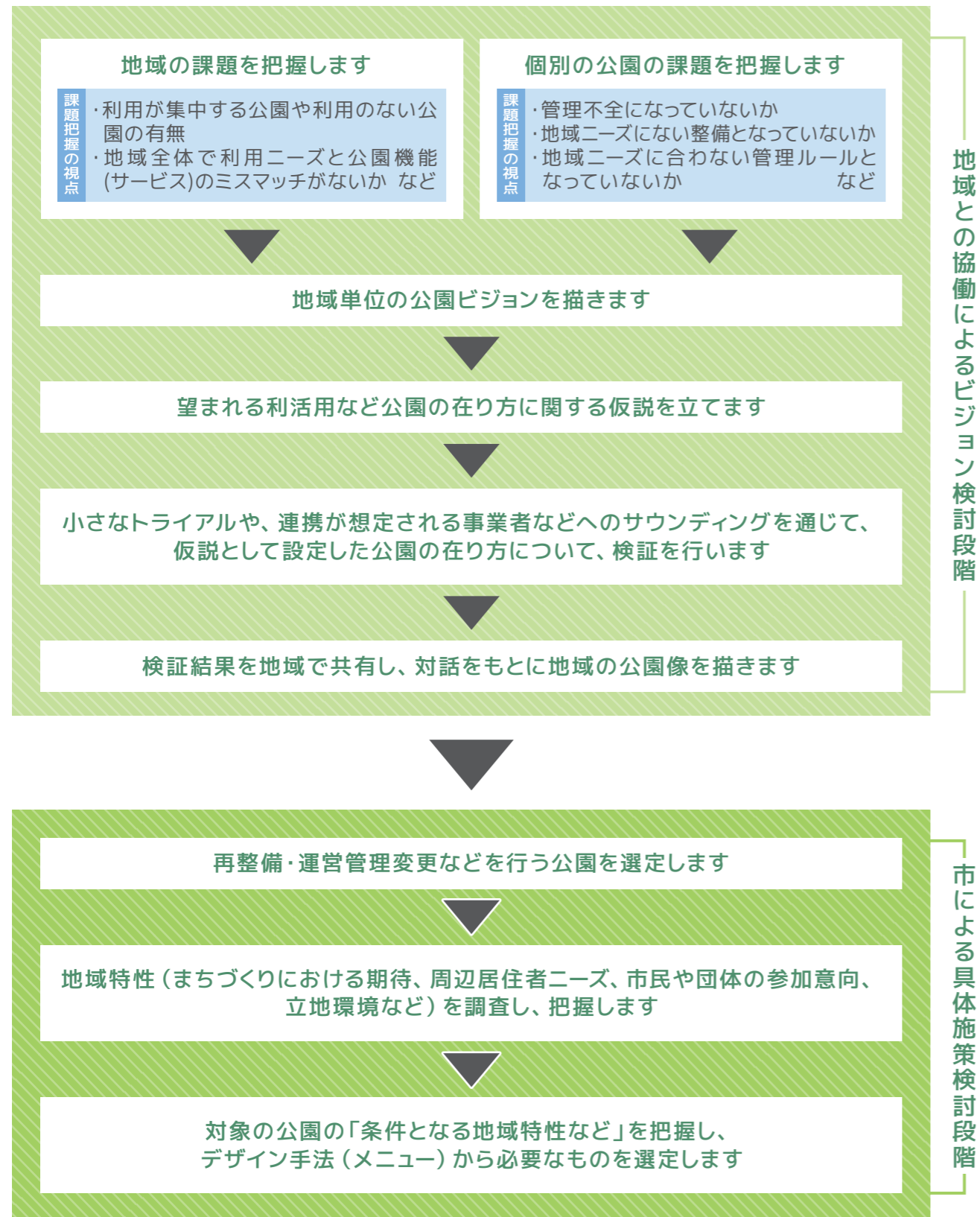
- 取組実績に基づく評価（アウトプット評価）を行います
- 社会動向の変化を把握します
- 成果に対する評価（アウトカム評価）を行います

「状況に応じ“変える”」～公園の役割や条件に応じたデザイン～

- 公園の役割や条件となる地域特性を踏まえ、必要なデザイン手法やアイデアを選択します

公園を状況に応じ“変える”ために、公園をデザインしていきましょう。そのためには、公園個別の課題と、地域の課題を把握することが必要です。これら両視点を持って、地域ごとに公園のビジョンを描き、地域の公園像の実現に向けて必要な対応を検討します。

<デザインの検討手順>



<デザイン手法の一覧(メニュー)>

A 公園の管理運営

A-1

地域のニーズに寄り添った柔軟な公園利用のルールをつくります



関係者と対話し、地域の意向に基づいたルールをつくり、柔軟な利用を可能とします。

A-2

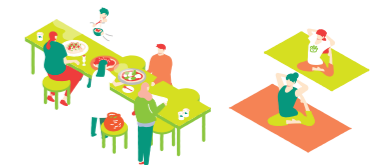
多様な機能を発揮するきめ細かい管理を行います



ゾーニングや時間帯ごとの管理ルールを設けるなど、柔軟な管理ルールをつくります。

A-3

市民による公園での活動を育みます



公園が持つ資源を生かした活動を行っている、または活動を行いたい人を支援します。

A-4

多様な主体と連携して管理します



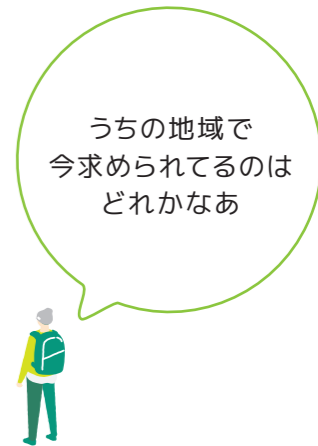
地域組織や活動団体、近隣施設などと連携し、地域に求められる公園づくりを行います。

A-5

民間活力を生かして高質な管理・運営を行います



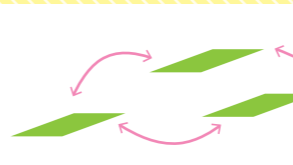
民間事業者が持つノウハウを生かして、よりよい市民サービスを実現します。



B 公園の再整備

B-1

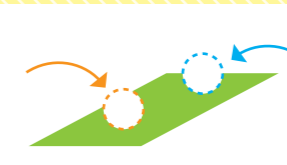
地域で複数の公園の機能を再編します



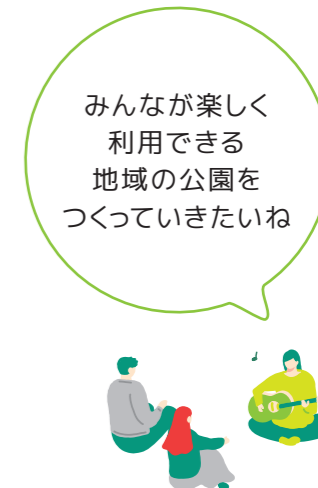
地域ニーズに対応するため、ひとつの公園に様々な機能を詰め込むのではなく、複数の公園で機能分担を図ります。

B-2

機能を複合化します

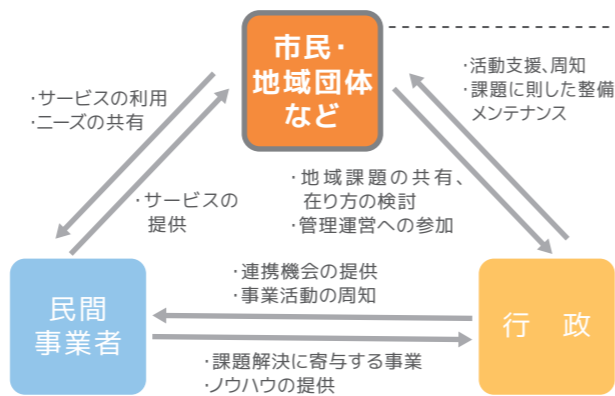


来園者が乏しい公園や、更なる活用が期待できる公園などでは、他の機能を付加し、多様な来園目的を創出します。



推進体制（各主体の役割）

将来像「日常に公園のある暮らし」の実現に向けては、行政だけでなく、地域の実情をよく知る市民と、行政では持ち得ないノウハウや実行力を有する民間事業者が課題を共有し、役割分担を図りながら有機的に連携し、本計画を推進していくことが必要です。



公園情報をキャッチ!

奈良市HPでは、市内の都市公園の情報を提供しています。他にも、民間サービスでも公園情報は充実してきています。お気に入りの公園を探してみよう!



奈良市の都市公園



公園の魅力を発信するメディア PARKFUL

普段公園でしないことをあえてやってみよう

まずは近くの公園に行ってみよう!

自分だけのお気に入りの公園を見つけよう!

こんなこともできるかな...是非、奈良市にご相談ください!

一緒に公園を使う仲間を見つけよう

時には、公園の使い方、納得のいかないことも...

地域みんなで公園の使い方や管理のあり方について考えよう

公園を使う人どうして話し合う場をつくろう

豊かなパークライフ自分たちでつくれる!

公園を楽しむことは、より良い公園づくりにもつながります。少しずつ、日常に公園のある暮らしを実践してみましょう!

地域による公園づくりを応援します!

奈良市では、地域の団体が公園の美化や維持管理を行う活動に対し、支援を行う「グリーンサポート制度」を設けています。



▲サポーターによる管理活動の様子

現地調査での小話



20年ほど前に、砂場の草が膝まで伸びていたことが気になり、一人で綺麗にしていました。それがグリーンサポート活動を始めたきっかけです。今は仲間も増え、休憩中のおしゃべりも楽しみの一つです。



家から近いので、まだ小さい子どもを連れてよく公園に遊びに行きます。子どもの遊び方が変わると、成長を実感します。幼稚園の友達と集まることも多く、ママ達の情報交換の場にもなっています。



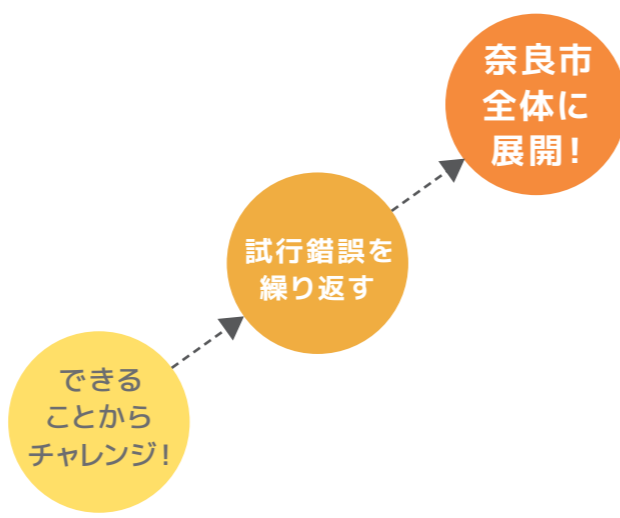
遊びたいときにいつでも行けるところが公園。遊具で遊んだり、みんなでかけっこもできる。弟や妹と一緒に虫取りをしたり、はじめて会った子と遊んだり、鹿にあげるためのどんぐりを探すこともあるよ。

計画に基づく施策の展開方針 -トライ&エラーによる施策のアップデート-

奈良市では、奈良市公園マネジメント基本計画を踏まえた施策の展開にあたっては、まず解決すべき課題が明確でかつ、実施のハードルが低い公園や地域を対象に、可能な範囲で試行的に実施することから始めます。

そこで把握された推進上の課題を踏まえ、常に内容をアップデートすることで、より本市や個別地域の実態に則した施策展開を図ります。

なお、多主体で実施する取組については、関係者間で取組の振り返り（対話）の機会をできるだけ設けることで、多様な立場からの意見を踏まえた施策改善を図ります。



計画の進行管理と見直し方針

奈良市公園マネジメント基本計画は、計画期間である概ね10年後の改定を目指し、定期見直しを行います。

	令和4 2022	令和5 2023	令和6 2024	令和7 2025	令和8 2026	令和9 2027	令和10 2028	令和11 2029	令和12 2030	令和13 2031	令和14 2032	...
Plan												
Do												
Check												
Action												
Plan												
Do												
Check												
Action												
Plan												

本計画に基づく施策による効果の顕現